都小視研会報

令和5年3月 31 日(R4－3)

東京都小学校視聴覚教育研究会　　事務局　中野区立平和の森小学校
URL　http://teav.cside.com/　　〒165-0026　中野区新井3－29－1
e-mail　mail@teav.cside.com　　電話　03-3389-1451　Fax.　03-3389-1452
通刊 336 号

ＧＩＧＡスクール構想が進む中で

東京都小学校視聴覚（情報・ＩＣＴ）教育研究会
副会長　兼　事務局長　**幅　健司**
（練馬区立立野小学校長）

長引くコロナ禍にあって、令和４年度の学校は、少しずつ制限も緩和されながら教育活動に活発さを取り戻しつつあった。ＧＩＧＡスクール構想による一人１台端末も自治体により若干の差はあるが、概ね２年が経過したことになる。東京都小学校視聴覚教育研究会では、令和４年度の研究主題を「新しい時代に生きる力を育む視聴覚（情報・ＩＣＴ）教育の追求　～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～」と掲げた。ＩＣＴ（視聴覚的手法）を活用した授業デザインとカリキュラム・マネジメントの工夫により、新学習指導要領で求められる一人１台端末を使った新しい学びの形を追究してきた。この２年間で各学校においても、学年や教科を問わず、活用の様子は確実に広がりを見せている。これは、教員の研究、研修による努力の成果ともいえるが、子供の順応の速さにも驚く。また、学力向上のみならず、特別活動や体力向上の場面でもタブレット端末を活用する子供の姿を目にするようになった。こうした取り組みが進む中で、教員の意識も２年前とは明らかに違ってきている。導入当初の「とにかく使ってみよう」から、最近では、学習のねらいに応じた効果的な活用への意識が一層高まり、その追究が進められている。また、それに伴い、評価の在り方についても議論が交わされている。授業の中でＩＣＴの活用が有るか否かにより、同じ単元でも児童の学習活動の様子が変わることから、評価の視点も共通理解しておかなければならない。

コロナ禍にあってＩＣＴ機器の配備が進み、加速して得た力もある一方、だからこそ見えてきた課題もある。今後も機器やネットワーク、デジタル教科書など環境整備が進められていく中で、従来の学校教育とＩＣＴがよりうまくかけ合わさり、「協働的な学び」と「個別最適な学び」が効果的に実施されていくためにも改めて意識しておきたい点がある。

１つ目は、子供の「学びに向かう力・人間性等」が一層問われていることである。コロナ禍における全国一斉臨時休校の際にも子供自身の学びに対する主体性が問われることになったが、学びを得る中心は、あくまでも子供である。今後もその子供自身が自らに学ぶ意義を見出し、学ぶ意欲もっていなければ、整備される学習環境も十分には生かされていかない。さらには、昨今、深刻化する情報モラルの問題においても、「禁止教育」から、子供自らが考え行動する「主体的情報モラル教育」への転換も指摘されている。ＩＣＴの活用がさらに活発になるとともに、学校教育全体を通して子供の「学びに向かう力・人間性等」もともに育んでいきたい。

２つ目は、教員の事務作業のＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）化を推進していくことである。教員の働き方改革が進められるも、多岐にわたる事務作業にまだまだ削減の余地は残されている。出欠確認や毎週の指導計画の作成、採点や集計作業など、少しずつＤＸ化の取組が見られてはいるが、今後さらに工夫ある取組をすべての学校で広げていかなければならない。働き方改革の推進により得た時間と気持ちのゆとりにより、授業改善とともに教職人気低迷を改善し、人材の不足の解消にもつなげていきたい。

最後に各校におけるＩＣＴ推進担当教員が今後も発展のカギを握る大切な存在であることは言うまでもないが、本研究部でともに学び合い、刺激し合えればと切に願っている。

東京都小学校視聴覚教育研究会 授業研究実践事例報告

第２学年 国語科

『ことばで絵をつたえよう』

葛飾区立本田小学校　主任教諭　山嵜　雅彰

■はじめに

東京都小学校視聴覚教育研究会では、令和４年度の研究主題を「新しい時代に生きる力を育む視聴覚（情報・ICT）教育の追求　～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～」と掲げている。ICT（視聴覚的手法）を活用した授業デザインとカリキュラム・マネジメントの工夫により、新学習指導要領で求められる一人１台端末を使った新しい学びの形を追究している。

以下に今年度最初の研究授業の内容を紹介する。

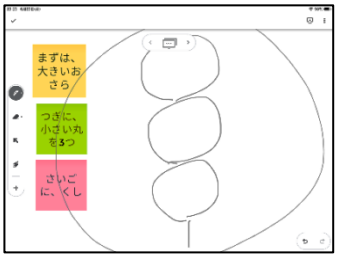
■研究主題に迫るためのＩＣＴ活用

(1) 一斉学習での活用

Zoom の Lounge「手書きパネルクイズ」を使う。手書きで回答するクイズ機能により、学習に興味を持たせることや視覚的に情報をつたえられること、クイズの出題者側（話し手）、回答者側（聞き手）にもなれるなど、主体的に学習に取組むために有効なコンテンツであると考えられる。

(2) 個別学習での活用

iPad 内のアプリ「Jamboard」を使う。手軽に文字や絵を描いたり、消したりできる機能により、自分の考えを何度も見直したり、整理したりすることが容易である。また、付箋機能を使って、メモを書いておくことができるため、どのような説明が必要なのか、分かりやすい説明の組み立てを考えるなど、個人での学びを深めるために有効であると考えられる。



(3) 協働学習での活用

この場面でも「Jamboard」を使う。本学習では、友達の説明を聞いて Jamboard 上に絵を描く。その後、話し手と聞き手の絵を互いに見合いながら、相手の説明のよかったところや不十分であったところを話し合う活動を取り入れる。そうすることで、自分の説明を振り返り、修正することができ、相手と関わり合いながら学びを深めることにも有効であると考えられる。

■授業の概要

(1) 単元の目標

相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、絵の描き方を説明することができるようになる。

(2) 単元の指導計画（ICT 活用場面との関連）

①単元の学習の見通しを立てる。

（一斉学習）「手書きパネルクイズ」の一人一人の回答を見せることで、考えの違いに気付かせる。

②説明する時に気を付けることについて考える。

（協働学習）Jamboard上に線や印をつけることで、視覚的に、順序を表す言葉に気付かせる。

③説明する絵を決めて、説明の仕方を考える。

（個別学習）Jamboard上に絵を描き、付箋を付けることで、順序立てて考えられるようにする。

④絵の描き方を説明したり、説明を聞いて、絵を描いたりする。【本時】

（協働学習）Jamboard上に絵を描き、付箋を修正することで、順序立てた説明を考えられるようにする。

⑤単元の学習を振り返る。

（個別学習）Jamboardでの学習記録を見ながら、ノートに振り返りを書かせるようにする。

(3) 本時の指導（４／５時）

＜目標＞

相手に伝わるように、話す順序や言葉の使い方

など、相手に分かりやすい説明の仕方について考えている。【思考力、判断力、表現力等】

＜展開＞（＊留意点　★ICT の活用　◆評価）

①絵ゲームに取り組む（一斉学習）

＊正しく伝わるように、分かりやすい説明の仕方を考える。

★Zoom の Lounge を用いて回答する。

②本時のめあてを確認する。

もっと分かりやすい説明の仕方を考えよう

③絵ゲームに取り組む。（協働学習）

・話し手は、自分の絵を見ながら説明する。

・聞き手は、説明を聞きながら絵を描く。

＊ペア活動に取り組ませる。

★話し手も聞き手も、Jamborad を使う。

④お互いのよいところや悩んだところを伝え合う。

★Jamboardに描いた絵を見せながら話し合う。

⑤発表者のよいところや悩んだところを伝え合う。（一斉学習）

＊代表で、数名の児童に説明をさせる。

＊分かりやすく伝えるためのポイントを確認させる。

順序を表す言葉：はじめに、次になど

様子を表す言葉：形、向き、場所など

⑥前時に考えた自分の説明を修正する。（個別学習）

＊自分の説明を振り返えらせ、友達のよいところを取り入れさせる。

★Jamboardの付箋の文字を修正する。

⑦学習のまとめをする。

◆【思考力・判断力・表現力】

相手に伝わるように、話す順序や言葉の使い方など、相手に分かりやすい説明の仕方について考えている。（Jamboard ・ノート）

(4) 児童の感想より

・iPad だと考えたことをさくさく書ける。紙だと自分で書けない。

・ノートでは、伝えられないけど、iPadだったら伝えられる。

・メモやカメラがあるから、観察カードなどに詳しく書ける。

・みんなの考えが見られて、勉強が深まる。

■成果と課題

○単元の導入時でZoomのLoungeを使った活動により、学習の見通しをもったり、意欲を高めたりすることにつながった。（課題の設定）

○自分で課題（どんな絵を伝えるのか）を設定する場面では、Jamboardを使うと書き直しが容易で、何度も思考していた。（主体性が高まり、個別最適な学びにつながったが、絵にこだわると、図工になってしまう。）

○一人１台学習用端末が、思考を深めるために役立つツールであると感じる児童が増えた。

●付箋を使ったことは、話す事柄の順序を考えること（思考力を育む）につながっていたのか。

→説明を書いた付箋を、どのような順番で話したらよいか、並べ替えるとよいのではないか。

●学習の前後で、児童が「できた」という変化（課題解決）を味わえるようになるとよい。

→Jamboardを修正してしまうと、思考の変化が分からないので、録音や動画を使ってもよい。

●Jamboardを使ったペアでの説明は、協働的な学びにはつながっていなかったのではないか。

→代表者に説明をさせ、その説明に対するよかったところや改善点を学級全体で考えると、思考がより深まるのではないか。

→全員の画面（考え）を提示することで、自分の考えを見つめ直すきっかけになるのではないか。全員の意見をいつでも見られるとよい。

■GIGAスクール構想の進捗状況

◆江戸川区

学習用タブレット端末は教員も児童もiPadを使用している。今年度はAppleTVが配備され、ICT環境としてはかなり整ってきた。またソフト面では、Microsoft365が児童・教員にも配布されており、授業や校務等で頻繁に使われるようになった。児童の欠席連絡や手紙の配付等の保護者連絡ではtetoruを使用している。

そして令和5年度よりベネッセのミライシード（ドリルパーク、オクリンク等）が導入され、授業でのICT活用が期待される。

◆北区

北区ではChromebookを全小・中学生及び教員に配布、端末に「きたコン」と愛称をつけ、日々学習に活用している。「きたコン」のまなびポケットに格納されているアプリ（スクールタクト、eライブラリ）やロイロノート、スタデイサプリ等を活用し、授業改善を図っている。令和４年度より６月を「情報モラル教育推進月間」と位置付け、１単位時間の情報モラルに関する授業を展開している。アプリ「事例で学ぶNetモラル」、区指導資料「（北区版）情報モラル指導モデルカリキュラム」を活用し、SNS等のトラブル防止に向けた取組を充実させている。区の教育情報化推進員が各校を巡回指導訪問し、教員や学校に指導助言を行い、「きたコン活用段階表」を活用してICT教育に係る指導実践上の課題等の解決を図っている。プログラミング教育に係る教材としては「Ozobot」「True　True」を各40台、貸出を行っている。

◆杉並区

杉並区では全児童へのタブレットPCの配布を完了しているが、導入の時期により、校内でも数種類の機器が混在している状況であり、今後統一していく予定である。学校では各教室にWi-Fi環境が整っているほか、家庭でも活用できるよう、自宅にインターネット接続環境がない家庭向けにSIMカードやルータの配布を行い、学校の授業のみならずドリル教材を利用した家庭学習でも活用できる環境作りが進められている。日常的な機器の活用に向けて、ベネッセによるICT支援員の配置があるほか、毎月のICT推進中核教員研修が区教育センターを中心に行われており、また各学校でもそれに対応した分掌ができるなど、区全体を通して活用が進められるよう取り組みが進んでいる。

事務局だより

都小視研では、コロナ禍の令和３年度の活動を、オンライン会議を中心に、工夫して取組を進めています。今年度、１２月から３月までの主な取組は、以下の通りです。

■１２月研推・事務局会
　１２月１日（木）中野区立平和の森小での対面と ZOOM によるハイブリッド授業研究会・会議
■１２月第２回授業研究会
　１２月２０日（火）江東区立第二砂町小学校５年川添拓海教諭　算数「四角形と三角形の面積」
　・情報手段＝デジタルコンテンツ、授業支援ソフト
　・講師　元学視連会長、現東京都教職員研修センター教授　須藤太郎先生
■１２月箱根特研代替リモート研修会　講演「情報教育とカリキュラムマネジメント」
　講師　中央大学講師 榎本 竜二 先生
　１２月２６日（月）中野区立平和の森小での対面と ZOOM によるハイブリッド授業研究会・会議
　・全国大会での発表内容報告（豊島区立椎名町小学校 原 香織 校長先生より実践のご紹介）
　・事務局会・情報交換
■１月研推・事務局会
　１月１９日（木）中野区立平和の森小での対面と ZOOM によるハイブリッド授業研究会・会議
　・特別研修会振り返り・研究集録について・第２回理事会について・会報について・情報交換
■２月研推・事務局会
　２月２日（木）　中野区立平和の森小での対面と ZOOM によるハイブリッド授業研究会・会議
　・紀要作成について（進捗状況）・事務局会・会報について（進捗確認）・情報交換
■３月研推・事務局会
　３月３日（木）　中野区立平和の森小での対面と ZOOM によるハイブリッド授業研究会・会議
　・紀要作成状況・会報について・来年度の予定について・事務局会・情報交換

都小視研会報 336 号（R4-3）　令和 5 年 3 月 31 日
発　行　東京都小学校視聴覚教育研究会
責任者　会　長　　武　智　　直　貴
事務局　中野区立平和の森小学校
編　集　事務局　　会　報　部
印刷所　タマタイプ　Tel 042-562-0965